

おわりに

場所も あなたを 記憶する

水俣病の苦しみを背負^{せお}わされた漁師^{りょうし}さんから、
こんな話を聞きました。

「海や山に向かい合った時、
美しい景色を見たという記憶^{きおく}が残る。
でも、大事なものは見られていると感^{かん}じることだ^{こと}と思う。
そうすると、その場と自分に記憶の対話^{たいわ}ができて、
自分もその場に記憶されるんです」。

自分もその場所に見られていると思うと、
その漁師さんは、かしこまるような気持ちになるそうです。

海をはじめとする自然に対して、
そのような気持ちがみんなにあれば、
水俣病は起きなかったかもしれません。

その場所を、どのように記憶するか。
その場所に、どのように記憶されたいか。

両方を考えてみた時、
風景の見え方やわたしたちの行動は
今までと同じままでしょうか。
あるいは少し変わるでしょうか。

もし機会^{きかい}があったら、
みなまたの海に見られに来て、試^{ため}してみてください。
そして、海の記憶をたどってください。

あなたが住んでいる町でも試してみてください。
町を見て、町に見られる。
そして、お互いを記憶し合ってください。

2013年2月
水俣病資料館
編集：川尻千津